

ORANGE NEWS

Total.180
Vol.015 2026 AUTUMN

ものづくりINTERVIEW

JIMTOF2026からはじまる、
TAKAMAZの新潮流。

WORK&SOUL

株式会社トーキン様

information

JIMTOF2026出展

TAKAMAZキャラバン隊 in 大阪&広島/
家族職場参観日を開催!/
あの人の愛読書

TAKAMAZ LEARCATION

魅惑の太古へ潜り込む。
ここが日本のダイナソー・ベース。

[表紙photo]

ロケーション／福井県立恐竜博物館 恐竜の塔

福井で発見された5種の恐竜と1種の鳥類でつくられた
全長約13mのシンボルモニュメント。増設された新館
ドームで見ることができます。

TAKAMAZ

高松機械工業広報誌 2026年秋号



関東支店 支店長
本田 暁暢

取締役、工作機械営業本部 本部長 兼
国内営業部長 兼 海外営業部長
唐木 英幹

名古屋支店 支店長
青地 唯晃

大阪支店 支店長
池端 隆幸

JIMTOF2026からはじまる、TAKAMAZの潮流。

現在、工作機械業界全体が「需要構造の変化」「技術革新への対応」など、大きな変化の波に晒される中で、TAKAMAZとしていかに市場に適応し、新たな付加価値をいかに提供していくべきなのかを模索しています。10月26日から開催されるJIMTOF2026は、これから弊社が目指す方向性をお伝えする良い機会と捉え、営業本部長を中心に関東、名古屋、大阪の各支店長に話を聞きました。

営業部としては、現在の市場環境をどのように捉え、TAKAMAZの課題のどこにフォーカスし、JIMTOF2026に挑みたいと考えますか？

【唐木本部長】

2026年当初、日本工作機械工業会（日工会）は、年間受注総額の目標（見通し）として1兆7000億円を掲げていました。その後、AIや半導体関連の需要が想定以上に好調であることから、同年6月に2兆円へと上方修正

されています。内訳を見ると、AI・データセンタ、航空宇宙分野、エネルギー分野などの好調を受けて引き上げをしています。その背景には足元で深刻化する人手不足への対応や、省人化・DXを目的とした設備投資が世界的に拡大していることがあるようですし、中長期的なプロジェクトが多いことから、それに向けた工作機械の受注というものは今後も続くだろうと見られています。一方でTAKAMAZは、自動車産業に向けた設備投資と結びついて業績を伸ばしてきた歴史があり、今まさに需要のあるこうした分野の需要には応えられていない状況にあります。AI・データセンタ、航空宇宙分野、エネルギー分野で高まる需要がある中で、今後TAKAMAZとして、この多様化をどのように捉え、具体的に何をどう進めていくべきかを、常に考えていく必要があります。

いまのお話を踏まえて、関東、名古屋、大阪、それぞれの市場環境とJIMTOF2026へ

の想いについて、順にお聞かせください。

【本田関東支店長】

関東の市場では、昨年あたりから自動車関係の設備投資は少なくなっています。新規設備の導入よりも、老朽更新のニーズの方が高い状況です。唐木が言うとおり、自動車業界以外のところに目を向けてPRしていく必要があると考えています。中でも半導体関係が非常に旺盛であると認識しており、その市場を重点的に攻略したいと動いています。当然、JIMTOF2026へは関東のお客様もたくさん来られると思いますので、そこに関連されるお客様に向けた機械やサービスのPRを含めた新規顧客の獲得を目指します。

【青地名古屋支店長】

東海エリアの市場環境も、今、本田が言った関東と同様の状況です。ただし、自動車産業は100年に1度の変革の

時期と言われ、将来に対する不透明感が高い中で設備投資の様子見している状況にはあるものの、そこにTAKAMAZなりの設備投資提案をしっかりと示示することで、受注の掘り起こしをすることもJIMTOF2026の存在意義かなと思っています。加えて言うなら、『ServoROT-X1』などの出展によって、旋盤だけではなく省人化の製品PRをできることも、良い機会になると思っています。

【池端大阪支店長】

大阪エリアは自動車領域は他地域と比べて比重は少なくなっていて、どちらかというと複合旋盤などのニーズが高く、お客様からお話をいただいている状況です。JIMTOF2026の出展機では『XTL-8MYS』がこれにあたりますので、改めてしっかりとPRしていきたいと思っています。それ以外では、GSLシリーズの後継機となる『AT-1』は、6月末に行った大阪・広島でのトラックキャラバンにてご覧いただきましたが、全国的なお披露目という点では初めてになります。安価でパフォーマンズの良い機械ということで魅力的に感じていただけたと思います。あとは複合旋盤としてお話をいただく中で、対話型のプログラム支援システム『T-PROGRAM GUIDE』も機械と併せてご紹介していきたいと思っています。

【唐木本部長】

大阪エリアでは具体的にどんな業種から引き合いが来ていますか？

【池端大阪支店長】

医療関係もそうですし、あとは半導体のネジ関係の部品などですね。

現在の市場の動きと弊社の製品を絡めた時に、ターゲットとすべきところを理解した上で、JIMTOF2026では、具体的にどのようなコンセプトを持った製品を出展するのでしょうか？

【唐木本部長】

現在も製造業の現場ではやはり人手不足が続いていて、省人化や自動化のニーズが高い企業も少なくないと思って

います。ただそれは自動車の領域とは違うところにあると私なりに考えています。つまり、自動車領域依存からの脱却と多様化を進めるとすると、TAKAMAZの得意とする自動化装置を、JIMTOF2026でどこに向けてどうPRするのかを考えたいですね。たとえば、AIブームを背景として需要が高まっている半導体製造。この分野では当社初となる「5軸複合加工機」を出展する予定にしています。これは半導体製造を想定したTAKAMAZの次なるコンセプトマシンです。また、弊社ではさらなる省人化・自動化を実現するため、1つのロボットセル内で多様な段取り替えを自動化する『ServoROT-X1』の提案を進めています。これまで手動で行っていたチャックやワークの交換に加え、ツールの自動交換までをロボットセル内で完結させるシステムです。これもぜひ注目していただければと思います。

【青地名古屋支店長】

今回の出展機の中では、新製品の「XTT-700」もぜひご覧いただきたいですね。自動車の駆動系部品やHEV、BEVのモータシャフト加工に向いている製品です。その他、水栓関係などのお客様のニーズにもお答えできると思います。今までの製品よりもストロークが長い機種ですので、これまでとはまた違ったお客様へもPRしていきたいと思っています。

【本田関東支店長】

JIMTOF2026では、主軸サイズの大きな台湾製の機械をお見せすることも考えています。これまでのTAKAMAZのラインナップには無かったような主軸サイズの機械も揃えることで、新たな分野のお客様にも訴求できればと思います。これまでの延長線上とは異なるTAKAMAZの姿をお見せして、新しい分野へと飛び込んでいく良い機会にしたいですね。

【池端大阪支店長】

今の日本製のものでは求めるコストで対応するのは厳しいのが事実で、そういうところを海外製の製品を取り込んでコストメリットを強化できれば良いと考えています。それがお客様のニーズに叶えば一番いい話だと思います。

【唐木本部長】

新しい分野への挑戦が、JIMTOF2026において核となるコンセプトだと言えますね。ここでどういう反響をいただけるのかをしっかりと見ていきたいと思っています。

JIMTOF2026は、新規分野開拓に臨むTAKAMAZの新たな挑戦の場です。半導体市場を見据えたコンセプトマシンや複合機、省人化ソリューションから低コスト機まで網羅し、高まる需要へ多角的にアプローチします。市場の変化を捉え、お客様と共に切り拓く未来。ぜひTAKAMAZブースへ足をお運びいただき、私たちの次なる進化を直接ご体感ください。



※JIMTOF2024の様子

JIMTOF 2026
第33回日本国際工作機械見本市

出展情報はP6へ

株式会社トーキン様

【株式会社 トーキン】



本社所在地 静岡県浜松市中央区大久保町1509 浜松技術工業団地内
代表取締役社長 金森 亮介
設立 1969年4月1日
事業内容 半自動・ロボットアーク溶接トーチ製造、
ロボット用TIG溶接トーチ製造/アーク溶接ロボット周辺機器、
溶接ヒューム集塵システム設計・製作、溶接ヒュームコレクター製造



HP



(左)代表取締役社長 金森 亮介
(中央左)営業部取締役部長 太田 修一
(中央右)製造部部長 影山 大輔
(右)製造部係長 小林 恭大

‘やらまいか精神’が溶接の未来を創る。

そのチャレンジが新たな技術を創出し、会社の未来を支える礎となる。



静岡県浜松市に本社を置く株式会社トーキンは、アーク溶接用トーチや溶接ロボット周辺機器の専門ブランド『TOKINARC』を世界展開し、自動車・鉄鋼・建設など、さまざまな製造現場の金属溶接を支えています。

まずはじめに、「溶接トーチメカ」として日本および世界へと事業展開されておられる御社の歴史について教えてください。

【金森社長】 当社は、1969年に私の祖父が静岡県掛川市でアルミ部品の熱処理を手がける会社を設立したことから始まりました。その後、拠点を浜松市に移し、アーク溶接用のコンタクトチップの製造・販売へと舵を切りました。さらに事業領域をアーク溶接用トーチの製造へと拡大し、産業用ロボットが急速に普及し始めた1980年代には、業界に先駆けて産業用ロボット用溶接トーチの設計・製造を手掛けるようになります。ロボット溶接の普及浸透に伴い、当社のロボット用溶接トーチは日本国内にとどまらず、海外の現場でも広く導入されるようになりました。



ロボット用溶接トーチ

こうしたグローバル展開に対応し、現地でのサポート体制を強化するため、2005年には中国（蘇州）、2015年にはアメリカ（オハイオ州）に現地法人を設立いたしました。現在では、主力である自動車産業をはじめ、国際競争の中で大規模な再編が進む造船業界など、幅広い分野のお客さまに向けて溶接品質の安定・向上に寄与するさまざまな製品・ソリューションを開発・提供しています。

「TOKINARC」ブランドがここまで成長を遂げるようになったターニングポイントはどこにあったとお考えですか？

【金森社長】 産業用ロボットの溶接という事業分野は、日本国内での競合企業が極めて少なく、実質的なライバルは大手

企業2社に限られています。この大手2社はロボット本体から溶接電源、トーチまでを自社で一括提供する総合力を強みとしています。そうした中、当社は自社製トーチを持たない安川電機様をはじめとするロボットメカ各社様にご採用いただき、独自のポジションと強みを確立できたことが成長の理由だったと感じます。また、自動車産業界の自動化の波に良いタイミングで乗せていただいたのではないかと思います。弊社は産業用ロボットの普及浸透とともに成長し、長年にわたり「TOKINARC」のブランドに愛着を持ってご使用いただいているお客様も増えていと感じています。

【太田営業部長】 当社の大きな強みは、歴史ある「溶材商（溶接材料等の専門商社）」との強固なネットワークと信頼関係にもあります。長年にわたり溶材商の皆様とともに築いてきた強固な販売網は、仮に新規参入者が同じ製品を製造しても一朝一夕に構築できるものではなく、その意味で当社は溶材商の皆様が育てていただいたという面も非常に大きいですね。

【影山製造部長】 付け加えるなら、弊社には段階的な設備投資によって確立した圧倒的な生産体制と月間100万本規模の量産によって実現されるコスト競争力があります。いまから新規参入してこれだけの設備投資ができるかというところかなり難しいと思います。

この『WORK & SOUL』では、ものづくりで大切にされている想いやこだわりをお聴きしています。御社がもっとも大切にされている精神について聞かせてください。

【金森社長】 ものづくりの精神については私もとても大切に考えているところです。弊社が拠点としているここ遠州地方には「やらまいか」という言葉があります。これはこの地方の方言で、直訳すると

「やってみよう」という意味になります。もう少し深く掘り下げると、例えば失敗するかもしれないけどやってみようとか、前例がないけどやってみよう、難しいけどやってみようという、この地方特有の前向きなチャレンジ精神を表した言葉だと思います。弊社としても、この「やらまいか精神」を大切に、まずはやってみようという気持ちでさまざまな課題に取り組んでいくことを心がけています。結果がうまくいかなかったとしても、挑戦することで新たなノウハウを得て、それを別の課題に応用することで、会社は成長していきます。アーク溶接というのは、理屈上うまくいくはずのものが、時としてうまくいかないことも多くあります。しかし、一度うまくいく条件を見つければ、同一条件下で何回でもうまくいく再現性の高さという側面もあります。お客様の溶接現場での課題と一緒にチャレンジする過程で、さまざまな製品の提案もできますし、ご要望があれば設計・開発・試作まで行うことができます。お客様からお声がけいただいた際は、難しい課題でも「やらまいか精神」でとりえずやってみようという心構えが重要だと、すべての社員が考え、実践してくれています。

この地域に昔から根付いた前向きな考え方が、御社の土台を形成していっているんですね。ところで御社がTAKAMAZの製品をご導入いただいた経緯はどのようなものであったのでしょうか？

【影山製造部長】 弊社には1980年代からTAKAMAZ製の『メリター』という油圧式の機械がありました。その後に銅製のノズルを量産するためにNC旋盤の『mini-TURN』を3台導入して生産能力と品質の安定化を図ってまいりました。さらに近年、無駄を一気に削減するために工程集約をしようということでXW-60を導入し、従来の4工程から2工程へと

大幅に短縮する改善が成功しました。さらにこの機械の動きや考え方を他の工程にも展開できるのではと考えてTAKAMAZさんに相談したところ、長年、専用機を使っていた主力商品であるコンタクトチップの加工工程に使えるとの考えに至り、TAKAMAZ旋盤でのテスト加工をお願いすることになりました。その過程で色々なメカを比較・検討しましたが、『メリター』の扱いやすさや使い勝手の良さ、テスト加工への柔軟な対応、そして一番は要望を前向きに受け止めてくれて、良いアイデアをいただきながら進められたことで、最終的にTAKAMAZの「XWG-3」を選ばせてもらいました。これからは弊社仕様に特化した旋盤を作ってもらえるのかな、一緒に考えて共に作り上げていけるのかなと思えましたね。

【小林製造部係長】 TAKAMAZさんは電話での対応もとても丁寧で、機械に不具合が発生した時なども、「これ、本当に直るのかな？」と不安を抱えながら電話をすると、その原因の究明から、次に何をどうすれば良いのかなど電話越しの指示がすぐ的確で、語り口調もその親しみやすさから不安が和らぎ、助けられた印象が強くあります。サービス課への直通ダイヤルがあるので、取り次ぎ無くオペレータが対応してくれるんですね。

特殊な業界の構造の中で確固たるポジションを築いてきたものづくりの現場は、オリジナルカラーで統一された機械が整然と並び、その美しさは印象深いものでした。月平均100万本以上の「コンタクトチップ」を量産しつづけるその根底には、遠州地方独特の「やらまいか精神」が流れていました。さまざまな点で共感と学びの多かった今回の取材。長時間にわたってご協力いただき、改めて感謝申し上げます。



JIMTOF 2026

第33回日本国際工作機械見本市

2026 10.26(月) - 31(土)

10:00-17:00(最終日は16:00まで)

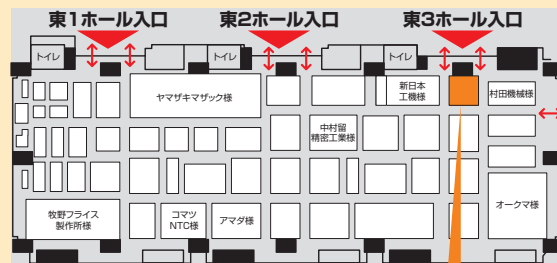
会場/東京ビッグサイト(東京国際展示場)

〒135-0063 東京都江東区有明3-11-1

JIMTOF 2026の
入場は完全登録制と
なっております



詳しくはHPへ

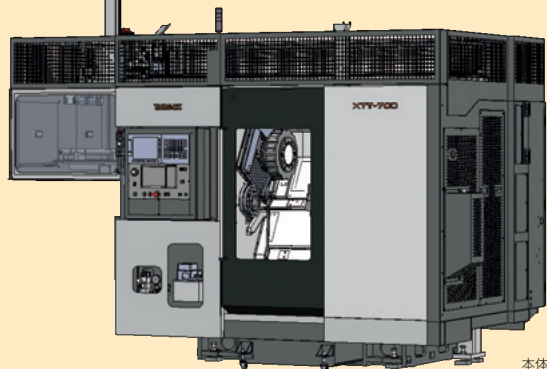


TAKAMAZ 東3ホール E3020

出展のご案内 タカマツ版「シン・全方位戦略」始動！

1スピンドル2タレットCNC精密旋盤
XTT-700

シャフト加工領域、
800mmへ



NEW

シャフトワーク加工に特化。上下ツイン
タレットとサーボテールストックを搭載
し、高効率加工を実現。進化したXTTが、
生産現場の可能性をさらに広げます。

チャックサイズ	10 (8) インチ
最大加工径	φ 250 mm
最大加工長	645mm*
最大棒材径	φ 65 mm

*仕様により Max.808mm

1スピンドル1タレットCNC精密旋盤
AT-1

唯一無二の
シンプルマシン



NEW



- 各軸高速化
- メンテナンス性向上
- 電池交換不要

圧倒的なコストパフォーマンスと
優れた操作性を両立。多様な生産
現場に対応するCNC旋盤です。

チャックサイズ	コレット、6、8 インチ
最大加工径	φ 310 mm
最大加工長	300 mm
最大棒材径	φ 42 mm

ALPS TOOL

短尺材専用自動棒材供給機

ASQ-51 II

残材再利用によるコスト低減と高剛性
設計で安定稼働を実現します。



8インチCNC複合精密旋盤

XTL-8MYS

1台3役の
オールラウンダ

シャフト・フランジ・バー材など多様なワークに
対応。Y軸、ミールリング機能、サブスピンドルを搭載
し、一台での工程集約と完品加工を実現します。

チャックサイズ	8インチ(メイン)6インチ(サブ)
最大加工径	φ 230 mm
最大加工長	404 mm
最大棒材径	φ 51 mm

ロボット搬送装置

ServoROT®-X1

測長ハンド採用

人手不足対策の
新戦力

ワーク搬送に加えコレット・工具交換
も自動化。段取り時間短縮と省人化に
貢献します。

最大可搬重量 20kg

5軸複合加工機

TAKAMAZ Multi Lathe

TML-380

NEW



TAKAMAZの新たな加工領域

5軸加工による複雑形状部品の加工
や工程集約に対応。旋削加工の枠を
超えた新たな加工領域を提案します。

ツールホルダ	BBT30
工具主軸回転速度	Max.12,000 min ⁻¹
工具収納本数	30ツール
移動量	X:400 Y:300 Z:400 mm

12インチCNC複合精密旋盤

LTC-25iLM



大径・長尺ワークの加工も、これ1台

回転工具、テールストックを標準搭載。
大型ワークの安定加工を実現し、高精
度な重切削を強力にサポートします。

チャックサイズ	12 インチ
最大加工径	φ 430 mm
最大加工長	1,000 mm
最大棒材径	φ 77 mm



ロボット搬送装置

ServoROT®-e

NEW

省人化を、もっと手軽に

ビジョンカメラと6次元力量センサを搭載。
ワーク搬送に特化したシンプル構成です。

最大可搬重量 10kg

対話型加工プログラム作成システム

T-PROGRAM GUIDE

プログラム作成時間66%削減！

対話形式の入力で、誰でも効率的に
プログラム作成が可能です。

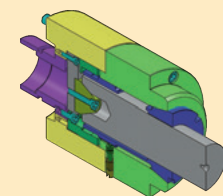


革新のコレットチャック

TPC2-D88

シャフト加工のためのコレットチャック

ワンタッチ交換による段取り時間短縮、高速
回転でも安定した把握力を実現しています。
センチの振れ精度確認にも対応します。



information

TOPIC1

TAKAMAZキャラバン隊 in 大阪&広島

6月30日～7月1日に、”動く展示会”TAKAMAZキャラバン隊が大阪と広島を訪れました！大型トラックに旋盤を載せてお客様の元へ。現地で実機をご覧いただき製品性能などをPRしました。大型展示会とは異なり身近に製品を感じられるTAKAMAZキャラバン隊。お立ち寄りいただいた皆さま、誠にありがとうございました。



TOPIC2

家族職場参観日を開催！

8月22日(土)に社員の家族を対象に、日頃働いている職場を知ってもらう機会として、家族職場参観日を開催しました。当社の食堂「オレンジキッチン」特製の社食弁当を食べたり、お子さま向けのクイズイベント、ワークショップ、工場内シールラリー、会長室デスクでの写真撮影を開催したり、盛りだくさんの内容で行われました。子供たちからは「普段働いているところを見られて楽しかった♪」と嬉しい言葉が聞かれました。



あの人の愛読書

関東支店 支店長

本田 暁暢

【勤続年数】30年

関東→厚木→アメリカ→ヨーロッパと渡り歩いて今年で勤続30年となりました。また関東支店に戻ってきましたのでお世話になった方に感謝の気持ちで仕事に携われたらと思っています。

これぞ、マネジメントに役立つ実践的バイブル。

当時、係長という中間管理職に昇級し、新年度から色々と管理職の立ち回りを教えて頂けると思っていたが、新年度になっても誰もなにも教えてくれず、係長って何をすればいいの？誰も何も教えてくれないの？と感じたことを今でも憶えています。そこで自分で勉強しなくてはならないと思い立ち、書店で購入したのがこの『THE21』というビジネス雑誌です。

2006年から購入しはじめ、かれこれ20年間定期購読しております。「本田は悩みなさそうでいいよな～」ってよく言われますが、この雑誌を読んでアドバイスを貰っているおかげかもしれません。管理職の皆さんの悩みの特集を掲載しており、共感出来る内容がありますので興味のある特集だけでも読んでみては如何でしょうか？

THE21 (PHP Business)



地域ブランディングに学ぶ

TAKAMAZ LEARNICATION

魅惑の太古へ潜り込む。ここが日本のダイナソー・ベース。

2026年現在、福井県勝山市と大野市は「恐竜」を単なる展示物から、「地域全体のアイデンティティ」および「広域連携の基柱」へと進化させ、独自のブランディングを確立しています。「恐竜の聖地」として世界級の認知と実績を築く勝山市。コアスポットである福井県立恐竜博物館と勝山ICを結ぶルート上には「勝山恐竜橋」と「道の駅 恐竜溪谷かつやま」が配置され、福井県立大学には国内唯一の恐竜学部までもが誕生。街には恐竜のオブジェが散りばめられ、恐竜をテーマにしたお土産物が次から次に開発され、ますます旅を盛り上げます。そこに隣りの大野市も加わって、地域一帯がポジティブに恐竜ブランディングを深化させています。

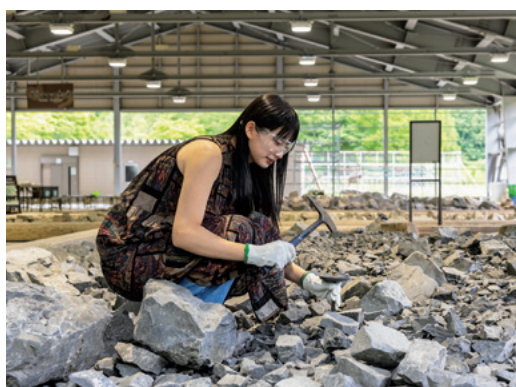


この旅と併せて巡りたいお薦めのスポット



福井県立恐竜博物館

世界三大恐竜博物館の一つと称される地質・古生物学専門の博物館。「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の3つのゾーンに分かれ、50体を超える恐竜全身骨格などが見応えたっぷりに並びます。



化石発掘体験センター HOROSSA!

約1億6600万年前(中期ジュラ紀)前後の地層から出た岩石を、ハンマーでたたいて化石を発掘する体験施設です。素人でもアンモナイトの化石を発掘できるのは日本でここだけ!大人も子供も夢中になること間違いなし。



ホワイトザウルス

福井県立恐竜博物館の近くで存在感を放つ巨大な恐竜のオブジェ。全長約17m、高さ8m。真っ白な巨体が田園風景の中に突然現れる光景はインパクト抜群です。

旅先でみつけた
とっておきのおみやげ



アクセサリキーホルダー (FPDM MUSEUM SHOP)
メガネの素材を使用し、職人が手磨きでつくったキーホルダー。福井で発見された恐竜を形どったものはミュージアムショップ限定です。



戯画リングノート (FPDM MUSEUM SHOP)
25周年記念グッズとして登場した「上田みゆき×福井県立恐竜博物館」の戯画リングノート。コミカルな恐竜たちの墨絵が印象的です。



恐竜ッ子 (道の駅 恐竜溪谷かつやま)

可愛い見た目と隠し味にココアが練りこまれた自家製餡が人気。全国菓子大博覧会で金賞も受賞しています。



ギャオボン (道の駅 恐竜溪谷かつやま)

カラフルで可愛い恐竜のタマゴに入った手づくりクッキー。味は全部で6種類あり、地元で収穫された素材が使用されています。

TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

詳しい情報はここから ▶



本 社 ・ 工 場	〒924-8558 石川県白山市旭丘1-8	TEL (076) 207-6155	FAX (076) 274-1418
	サービス受付専用ダイヤルイン	TEL (076) 274-1400	FAX (076) 274-1454
	部品受付専用ダイヤルイン	TEL (076) 274-1407	FAX (076) 274-1454
あ さ ひ 工 場	〒924-0004 石川県白山市旭丘4-13	TEL (076) 274-0123	FAX (076) 274-8530
第 2 工 場	〒924-0004 石川県白山市旭丘2-18	TEL (076) 274-1443	FAX (076) 274-3170
第 3 工 場	〒924-0004 石川県白山市旭丘2-18	TEL (076) 274-1448	FAX (076) 274-1446
開 発 セ ン タ ー	〒924-0838 石川県白山市八束穂3-3	TEL (076) 274-1442	FAX (076) 274-1345
関 東 支 店	〒360-0042 埼玉県熊谷市本町2丁目48番地(ユニバース熊谷ビル1F)	TEL (048) 521-8771	FAX (048) 520-2189
大 阪 支 店	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-28(新大阪テラスサキ第3ビル2F)	TEL (06) 6395-3252	FAX (06) 6398-2430
名 古 屋 支 店	〒460-0016 愛知県名古屋市中区橋2-1-12(橋AKビル2F)	TEL (052) 332-6801	FAX (052) 332-6303
浜 松 営 業 所	〒430-0929 静岡県浜松市中央区中央3-15-1 (EKビル6-D)	TEL (053) 456-2530	FAX (053) 456-2531
厚 木 営 業 所	〒243-0018 神奈川県厚木市中町3丁目9番地15号(厚木JCビル101号室)	TEL (046) 240-9820	FAX (046) 240-9424
東 北 営 業 所	〒981-1217 宮城県名取市美田園5丁目4-1 (アルモニービル101号室)	TEL (022) 784-1882	FAX (022) 784-1883
北信越営業所(北陸)	〒924-0004 石川県白山市旭丘4-13	TEL (076) 274-1405	FAX (076) 274-8530
北信越営業所(信越)	〒955-0092 新潟県三条市須頃2丁目13番地(パークハイツ須頃1階102号室)	TEL (0256) 36-5560	FAX (0256) 36-5567
広 島 営 業 所	〒732-0827 広島県広島市南区福荷町1番1号(ロイヤルタワー8F)	TEL (082) 568-7885	FAX (082) 568-7886
海 外 拠 点 /	アメリカ(シカゴ) ドイツ(ヒルデン) 中国(杭州) タイ(バンコク) インドネシア(タンブン プカシ) メキシコ(レオン) ベトナム(ホーチミン)		

※このニュースに対するご要望・お問い合わせは編集委員会まで TEL (076) 274-1408 FAX (076) 274-8530